



増毛山道

近世の貴重な土木産業遺産

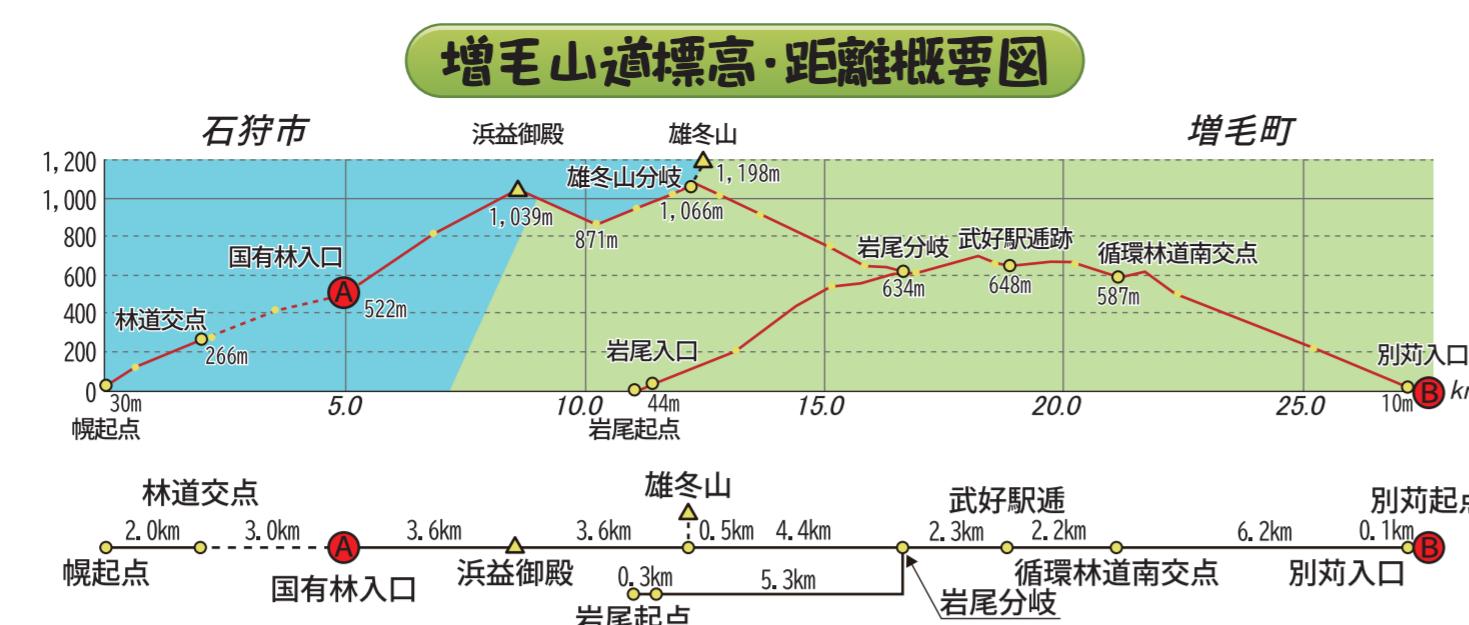
m a s h i k e s a n d o

山道に今も残る電信柱など

増毛山道の脇には今でも木製の柱が残っているのを見ることができます、これは明治22年に設置された電信線の電柱です。(注:電信線は電報などをやりとりするためのもので、電話線とはちがいます。)当時、山道が機能していたとはいえ冬の間は海が荒れて船の往来も滞り雄冬や浜益地域は陸の孤島になってしまっていました。そのため、電信線ころだったのです。札幌雄冬へと至る電信線の年の9月。その年の9月でした。その後の増毛道に沿って設置が進められたという山の中に電柱を立ました。

た。そのため、電信線の開通は住民が強く望むところだったのです。札幌から石狩・厚田・浜益を経て雄冬へと至る電信線の敷設が着工したのは明治21年の9月。その年の9月には札幌・石狩間が開通しました。その後の増毛までの87.26kmの線は山道に沿って設置が進められましたが、海拔千m以上という山の中に電柱を立てるのは非常に困難を極めました。

最終的には明治 22 年の 7 月に完成し、その年の 9 月には増毛でも電信や電報が使用できるようになるのですが、12 月にはすぐに不通となってしまいます。雪が解けるのを待って修理に出かけてみると、雪崩のために電柱は跡形もなく谷底へ押し流されていました。札幌からの接続を空知経由で迂回する線の新設も検討されましたが、経費が莫大になるため断念。とりあえず冬の間は雪に埋めてしまおうと線路を地上 1 m まで下げてみましたが、これも効果なく 23 年の 12 月には再び不通となってしまいました。結局、札幌から樺戸新道という雨竜方面を通過する道路を経由しての迂回路で電信柱を新たにひくことになり、明治 24 年に着工。翌年 1 月から開通し、一年を通じて確実な通信が可能になったのですが、問題もありました。増毛から浜益へ通信するにもわざわざ札幌を中継しなければならず、時間がかかると不満が出たのです。



用を必要としております。林道等とも複雑に交差し、標識や案内板等の整備、原生林の中で標高1200mまでの笹刈、野生動物の生息域、遭難防止等を考慮し一般開放を見合わせております。増毛山道の会等が開催する「体験トレッキング」にお申し込みください。増毛山道は、大部分が暑寒別天売焼尻国定公園を通過しているため、動植物の採取や樹木の伐採、車馬の乗入れ等は法律で禁止されております。

- ◆遭難防止や自然保護のため、山道ルート以外へは立ち入らないでください。
 - ◆山道には開拓期の歴史遺産が遺されております。遺産、遺構の破壊と持ち帰りは厳禁です。
 - ◆弁当殻や空き缶の投げ捨ては、餌付けされたヒグマを造り出すとても危険な行為です。持ち込んだものは、ゴミも含めて全て持ち帰りましょう。
 - ◆山道には、ヒグマ、スズメバチ、マダニ、ウルシ等の危険な動植物が生息（生育）しているので十分注意してください。また、生態系に影響を与えるので、野生動物への餌やりは止めましょう。
 - ◆山道には公衆トイレは整備されておりません。携帯トイレを携行し、使用後は一般のごみ同様、必ず持ち帰り、適切に処分してください。



結局、再び從来の増毛山道沿いの線にスポットが当たり、これを改修して使用することになりました。

など は連柱の間隔を狭め、縁には太めの鋼線を用い、腕木も特製の頑丈なものに変えました。こうして糸余曲折を経て札幌から石狩・浜益・雄冬を経由する電信線が完成し、毎年の補修を行いながら運用するようになったのです。その後、浜益・雄冬間などには海岸沿いに新道ができ、電信線もそちらに移設されて被害は

電柱がとうとう修理されて被害は少なくなったと言います。

凡 例	
	山道公開ルート
	〃 非公開ルート
	周辺林道
	撮影ポイント
	水準点・標石番号（標高） <small>（大枠表示は発見済）</small>

